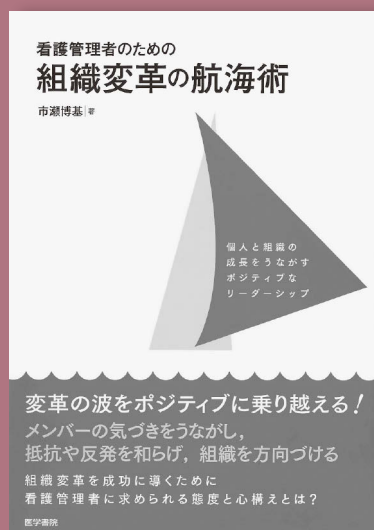


書評

看護管理者のための
組織変革の航海術個人と組織の成長をうながす
ポジティブなリーダーシップ

- 著 市瀬博基
- 定価 本体 2600 円 + 税
- 発行 医学書院

評者

日本赤十字広島看護大学
学部長・教授
村田由香

組織変革の荒波を乗り越えるための
「かじ取り」の方法をひもとく

重要なのは前向きな態度と心構え

看護管理者が組織変革を起こすために、今ある従来の方法を否定せずに、それ以上の成果を求めてチャレンジするには、柔軟な思考と時間とエネルギーが必要です。だからこそ、管理者の前向きな態度と心構えが重要になります。一方で、変革を起こすことは、組織内のメンバーにとっては負担になり、抵抗勢力もあるなど、葛藤が起こることも否めません。

組織変革には、これらを乗り越えるために管理者がどのようにかじ取りをしていくのかという課題がつきものです。本書は、組織変革をどのように進めていけばよいのかを、読者に柔らかく語りかけるように分かりやすくひもといています。

著者の市瀬氏が「まえがき」に述べているように、本書は「すぐに役立つノウハウ」があるようなハウツー本ではありません。組織は、さまざまな考え方や価値観を持った人々の集合体であり、その1人ひとりがどのように合意して「行動」に変化を起こし、かじ取りをするリーダーと協働していくか、どう荒波を乗り越えるのか、本書はその方向性を示しています。そういった意味で、「航海術」とタイトルをつけられていることにとても納得できます。

インタビューで明らかになった
管理者の役割

本書の第1章では、組織変革の特質とプロセスを考える上での理論的枠組みが示され、第2章以降では4つの施設で変革のリーダーとなった人々へのインタビューを通して、組織変革の過程が丁寧に解説されています。また、その背景に

あるエンゲストロームをはじめとする理論的枠組みに照らしながら、取り組みの過程が分かりやすく説明されています。

第7章では、これらの事例の考察から明らかになったことをもとに、組織に新たな「活動」を生み出すポジティブな感情の役割について考察されています。

「長いあとがき」では、「コーチングの働きを持つインタビュー」が、これからの組織変革において看護管理者に求められるマネジメント手法の1つではないかと述べられています。組織変革の枠組みとプラス要素、マイナス要素、状況好転のきっかけの視点(p.235)は、看護管理者がメンバーと話し合いながら目標に向かうための指南になると思います。

組織に新しい風を
吹かせたいと思う人へ

私は、7年前に市瀬氏からポジティブ・マネジメントを学んだ後に、大学教員の立場から、看護管理カンファレンスや施設内研修を通して、多くの組織変革のきっかけづくりに関わってきました。本書を読んで、改めて、これまでに関わった組織がどのように変革を起こして目標地点に到着したのか、次の改革の航海を始めているのかを伺ってみたいと強く感じています。

働き方改革の推進をはじめとする社会の変化、医療現場の著しい変革の中、先日は2018年度診療報酬改定案も示されました。組織のかじ取りをするリーダーの方々は、また新たな目標地点への出発の準備をされていると思います。

自組織に、しなやかにポジティブに変革を起こしたい、新しい風を吹かせたいと悩んでいる看護師長だけでなく、組織の中核となっているスタッフの方々にもお勧めしたい一冊です。